

---

# 重奏世界蹂躪混乱記

tasogaremono

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

重奏世界蹂躪混乱記

### 【Nコード】

N2307Z

### 【作者名】

tasogaremono

### 【あらすじ】

時は、聖譜暦1648年、三河消失とともに行なわれる君主ホライゾン・アリアダストの処刑の中、とある世界の少年は悲運にも神の悪戯でこの世を去ることになった。そこで手に入れた力は指針を狂わす悪魔の兵器、そして少年は同じ境地に立たされているものを救いに始める、そしてそれは全面戦争を意味していた。ゆえに少年は世界を相手に動き出す

\*この物語は某頭の自嘲気味でお構いなくいろいろなものをぶち込んでカオスにする作者によって作られた境界線上のホライゾンの物

語です。どうぞお構いなく白い目でお読みください。ちなみに人によって様々ですが神様チート物語です。

## 境界線上の奏者達

とある世界の学者はこう唱えた、

『この世界は沢山ある、故に楽しみ方、生き方、考え方、様々だ、だから決して忘れて欲しくない、この世界にはまだ自分も知らない可能性があるとということだ、それは時に最悪をもたらし、時に最善をもたらす』と

そして、この時、少年は平凡な日々を送っていた

少女は無慈悲な研究者につかまり、モルモットとされ冷たい釜の中で実験として生きることとなった。そして、復讐を決める

そして、とある青年は古き幼馴染を助けるために立ち上がり  
とある少女はその思惑で高笑いをする

またあるところでは騎士が鎖をもって立ち上がり  
幼き政治家はみんなを引っ張ろうと指導していく

またあるところでは高笑いをしながら世界を手中に収めようとする  
老いた人もいる

そして、消滅した土地の中には指針にない建物が隠され、静かにその時の歯車を動かそうとしていた

様々な物語が交わる中、ひとりの少年は死を迎えた

それと同時に人々は指針の狂わされた未来へと歩き始める

## 境界線上の奏者達（後書き）

さあ、始まりました、境界線上のホライゾンの二次創作、今回が私にとって3作目になります。どうか温かい目で見守っていただけると幸いです

始まりの二人(前書き)

始まりとは何か

配点(死について)

## 始まりの二人

聖譜歴 XXXXX年10月9日

「で、ここは、おなじみの天国です」

周りは雲、辺り一帯雲

目の前にいるのは黒髪美少女天使？、はい、マジ最高です、うんマジで、まあ、これが現実世界（生きていた時の世界）だったら錯覚を起こしかねないがな

それにしても、ジャンプを買いにコンビニに向かっていたら十字路口で突然やってきた4tトラックにもすごい勢いではねられてそのまま吹っ飛ばされ落っこちたのが鉄筋コンクリート打ち込んでいてまだあのでっかい釘があったところに真っ逆さまにダイブ、そしてら全身ぐさりといつてね、それで一発で逝った

なんてギャグじゃないんだからやめてほしい、うん、これはマジだった

「それにしても？あの死に方うけるわ？飛ばされたのが500メートルとか、どこそのスマブラのホームコンじゃないんだからww」

「あの、いくらなんでも人の死を笑うのやめてもらえます？」

笑うと可愛いのだが、さすがに理由が理由で少し笑えなかった

「いやあ？ごめんごめん」

まあ、別にいいんだけど、現在の状況を除けば、何故かって？そんなのかんたんだ、今状況的にもまずいからである

「それにしても、いい体してるわよね〜舐めたいわね〜」

とりあえず逃げようと思うが逃げられない、なぜなら

十字架に磔にされパンツ履いてYシャツ一枚なのである、ちなみに俺は男である、もう一度いう男なのである

クンクン、天使がやけに近寄ってくる、けどかなり恥ずかしい

「いい匂い」

そういうとYシャツのボタンを一つづつ丁寧に外していくと

「フウ……」

妙に息が熱っぽかった

「まあ、とりあえずここで襲うのもあれだし、状況を教えるわね」  
そういうと、なにやら一枚の紙を出して見せる

「まあ、言われなくてもわかると思うけどあなたは死にました、だから閻魔様の判決がうんたらかんたら」

「(うんたらかんたらってなんだよ)」

「って言うところなんだけどね、今回はそれも行かないのよね？」

「????」

「まあ、状況がよくわかってないようね、自分の死因でなんか違和感ない？」

「……500メートルぶっ飛ばされたこと？」

「そう、その通り、今回はね、ちよいと遊び心でね……うん、悪気はないと思ってる、反省もしてないし、後悔もしてないもん、だって神様だし」

「(後悔と反省くらいはしてくださいよ)……;)しかもこの人神様だったよー!!)」

「で、流石にね、それだと最高神がね、ダメだっていうからしょうがないから他の世界に送ることにしたの」

「へえ？」

「で、行き先なんだけどね、ここに逝ってもらいます!」

「(字が違う!字が!)」

そういうと鈍器のような物を持ちだした

「境界線上のホライゾン？」

「読んだことあるでしょ？」

「ええ、はい、もちろん」

「なら、話が早い、というわけで、テンプレねテンプレ、転生よ転生」

「転生つすか！？」

「そゆこと〜」

「で、流石にね？そのまま行かせて死にました？なんてめんどくさいから、お姉さんと特訓だよ！」

「特訓つすか(；；、)」

「お姉さんと四六時中一緒なんだよ〜」

「キタ (。。( ツ！！」

俺のテンションはガンガン上がる

それから無名の者の特訓は始まった

それは想像を絶するものだった

「んじゃあ〜まず最初はこれかな〜！」

そういうと天使が人差し指を天に向けると、たちまちどす黒い雲と共に雷雲が現れ

ズバババツバアアアン！毎秒400発の雷が当たりに降り注ぐ

「とりあえず慣れてみよ〜！ちなみにここ死んだあとの世界だから死なないよ〜」

「（死んでも慣れるもんじゃねえ！）」  
そう言いながらも

ピシャツ！バリバリバリ！

脳天に雷が直撃する

「ウワアアアア！」

ものすごい激痛が悲鳴と共に体を駆ける、とりあえず体が張り裂けるほど痛い

しかし、何かの鎖が外れたみたいに体が軽い

ちなみに、神様の力によつて、超回復が施されており、瞬間的に肉体が再生するというまさかの事実、だから

「そ〜れ！そ〜れ！」

笑顔で雷を当ててくる神様、その行動に躊躇いはないとことん滅茶苦茶だった

一番ものすごかったのは

「うん〜んじゃ次コレね〜」

ちなみに雷の初期訓練が終わり、頃合を見計らってきた頃天使がそう言った

そして、俺の目の前にあるのは幅70cm位の薄い板

「というわけで、飛び降りてもらいます」

「エッ！（；。；）」

「異論は認めないんだよ〜」

眼下には空、地上までの高さはまあ、6000m位だろう

「んでは、逝ってみよ〜」

そういうと

トンッ！

物凄い力学を無視した肩叩きにより

「うつそおおおおお！」

ヒュルルルルルルルルルル！

6000メートルからの紐なしバンジーとはまさにこのこと

めちゃくちゃなスピードで迫る地面、さすがに死なないと言っても

「これは嫌だアアア！」  
俺は少しでも衝撃を吸収しようとして体制を変える、それと共に近くに水面がないか空から見るが  
「ねええ！」  
ズシャアアア！ドゴオン！大量の砂煙とともに地面が抉れた

そのほかにも、基礎体力訓練（筋トレ各1000回×10セットノ日）の他に溶岩の近くで30分耐えろとか、水中ですつと息を止めろとか、もはや無茶苦茶、そのほかにも、周囲1kmの敵の気配を察知する訓練とか、そのほかにも無茶苦茶な量を放ってくる弾丸を一発も当たらずかわす訓練とか行なった

まあ、朝昼夕と地獄の訓練をし、  
夜はなぜか

「ういゝスバルゝ私の酒が飲めないのかあゝ？」

絶賛デロンデロンの神様、そして、勝手に名付けられた俺

「（これアルコール度数高いじゃん）えっ、いや、あの」

「飲めないのかゝ」

そういうと無理やり酒を飲ませてくる神様

「今日だってさあ、あの雷神ゼウスのエロジジイ、セクハラだよセクハラ」  
愚痴をこぼす神様

「それに比べてさあ」

そういうと俺の顔が神様の手によって吐息が当たるほど顔の近くにもっていかれ

「見た目可愛いし、言うこと聞いてくれるし、セクハラしないし、いいとこづくしよな〜」

そういうと俺の方に倒れ込んでくる

「（おいおい、天下の神様）」

毎度おなじみのことだが酒飲み神様の相手をさせられた（色々ハプニングがあつた、ほんとに危ない意味で）

それからなんやかんやあつて数十年後

「はい、これ」

「これはなんつすか？」

どこからからか持ちだしてきたのは一本の長太刀

シッブウ イヌモクニキリムネミツ

「疾風出雲国斬宗光、もちろん武装です」

「ということは、もう時期ですか？」

「そゆことなのです」

「はいいものですね」

「ねえ？」

数十年の特訓でもものすごく色々なものが強化された  
肉体強化はもちろん、視力聴力共に超人レベルまで強化され、第6  
感ならぬものもついた

「たぶん、君なら使いこなせるんだよ！」

「まあ、直感で合いそうな気がしますからね」

そういうと、なにやらボタンを持ち出し

「んじゃあ、いつてらっしゃい」

「はい、いきますわ」

ポチッ！

・  
・  
・

「テンプレなんだよテンプレ！」

「先に言ってくれええええ！」

真っ逆さまにダイブし始めた

そして、これから始まる物語で重要な人物がもう一人、目覚めるのであった

「被験体、FH 015 紅蓮、体内同化率の75%が同化完了」

「同じく、高次元神格武装、煉魔刀一式とのシンクロ率、安定領域に突入」

そこにいるのは白髪の女性しかし、頬や体のあちらこちらに赤い痣や紋章が書かれている

「こつも同調率が高い実験体とはな、なかなか面白い」

「それにしても、まあ見つかったもんだ、とあるお家さんが語り継いでいた”触れたものを全て燃やしてその形を残さず破壊する”ねえ・・・とんだもんがこの世界にあつたものだ」

研究社は只々、その表示枠サインフレームを見て頭を回転させる

「まあ、完成までは少し掛かるがこれでも十分だろう」

研究者は言葉を並べながら、手元にある物理ディスプレイを見てた

コポコポツ！研究者気付かなかつた、この時何かが動いたことを

ピキツ！40層もあるガラスケースにヒビが入る

「（私は・・・私は・・・ここから・・・）」

ガシャアアーン！ガラスのケースが音を立てて割る  
そしてその研究所は火の海に包まれた

「（私は・・・探す、これから、意味を）」  
火の海の真ん中にある人影、怪しく光る赤い瞳と痣、そして、炎の  
中に揺らめく銀色の髪と黒い服

飛ぶ紙が一枚、そこに書かれているのは松平元信の名前だった  
”人工生物進化計画” そう書かれていた

## 目覚めの戦場（前書き）

全てはなんのために動き出すのか  
配点（自分とは）

## 目覚めの戦場

ズシヤアアアアアン！

「いつてえ！」

地面からぶつかる、受け身をとったもののさすがに痛い  
そして、ぶつかった衝撃で地面がえぐれる

ぶつちやけ死んでも問題なかった威力だ、まあ、そりゃ6000m  
のダイブになれたからである、そして

「ああ〜生きてるスバル？」

「ああ、生きてますよ神様」

「いや〜さっきはごめんごめん、ああ〜いい忘れたんだけどそのあ  
たりに山小屋あると思うけど、その家がそっちの世界での君の家だ  
から、ちなみに設定としては親いないから〜」

「ご丁寧にありがとうございますわ」

「いえいえ〜」

「あと〜追加で機動殻つけといたから〜」

「どうも〜」

そういうと通信が切れる

「ふう〜ん、まさに最高ってかんじだな」

ピキッー！頭が割れるように痛くなり

ブツンツ！電気が落ちるように俺の意識も消えた

ここは仙台伊達教導院大広間

ズドオオオオオオン！なにやら遠くで何かが落ちたまたは爆発した  
ような音が聞こえた

大広間にいるのは、女性二人

「ねえ、正宗」

「な〜に、成実？」

「なにか落ちましたわね」

片方の機動殻の女性は手元の表示枠サインフレームでその落下物の周辺の地図を出す

「そうわね、しかも、領地なのかしら？」

「うん、思いつきり領地よ」

ツツコミを入れる成実

「あらあ〜」

重い腰を上げる成実

「不転百足でみてくる？」

「おねがい〜」

正宗に言われゆっくりと腰を上げる成実

「んじゃあ、4番開けて頂戴」

「了解〜」

政宗は手元に表示枠サインフレームを表し

「政景さん、成実がちょっと落下物の確認に出るみたいだから、4番滑走路開けてもらっていいかしら？」

『Jud.』

「あつ、副長どうかされましたか？」

「えっ？ああ〜ちよいと外遊つてところかしらね」

「Jud. なにかありましたら、連絡ください」

「Jud. んじゃあ、ちよつと警戒レベル上げておいてもらえない？」

「Jud. 了解しました」

そついうと足早に去っていく生徒

「（まあ、警戒するに越したことはないからね）」

そつ言いながら廊下を歩いていくと

『副長、滑走路の準備完了しました』

「Jud・ありがとね」  
『いえいえ』

そういうと少し身構えて

「不転百足！」

ジャキツ！光と紋章と術式と共に機動殻が成実の四肢に装着される

「んじゃあ、行きますか」

パシッ！バシユウウン！ブースターが唸りを上げ一気に加速し飛び出す不転百足だった。

ギユイイイイイン！

不転百足を飛ばすこと10分

「で、どう？正宗？？」

「うん、確かに何か落ちた後はあるわ」  
周りを見てみると山岳地帯には

そして、成実を見た

「えっ、うそ・・・」

そこには中学2年生くらいの少年が、ぐったりと横になっている

「人が・・・落ちてる・・・嘘でしょ」

成実は啞然としている

それもそうだ、爆風威力的に物凄い高さからの重量落下だと考えたからである

「どうしよう・・・」

そういうと通神が開く

「正宗？人よ」

「うん、もってかえってきちゃって」

「OK」

そういうと、不転百足を起動させ後ろに乗つける成実

「んじゃあ、行きますか」

そういうと不転百足を飛ばす成実

『成実！』

成実は、不転百足を飛行させながら空を見る、そこには何故かP・A・ODAの極秘戦艦

それは前方に3つの砲門のついた4連艦、大きさは準リヴァイアサ  
ン級である

「っ！記述にない艦船・・・どういうことよ!？」

紋章は確かにP・A・Odaの奴だ

成実は不転百足の右旋回でその艦船を避けようとする

ズドンッ！

「攻撃!？どうして!？」

『成実!大丈夫!？』

ズドンッ!ズドンッ!武神不転百足にめがけて思いっきり弾をブチ  
かます艦船

「正宗!？どういうこと?」

『よく聞いて、成実』

正宗から通信が入り、それを注意深く聞く成実

『さつき、通神で、P・A・ODAからの連絡でその艦船は、安土  
のプロトタイプらしいんだけど、それがなにものかにハイジャック  
されたみたい、で撃墜命令が出たわ』

「まったく、なにやってるのよあいつらは!？で、どうすんの?」

『私も出るわ』

「大丈夫なの!？」

『ええ、大丈夫よ』

そういうと通信が切れた

「まったく、エライことになったわね」

そして、うしろの荷物を見る

「どうしようかしらね、これ」

そう注意を俺に向けてると

ズドンッ！不転百足に直撃コースで砲弾が発射された

「っ！避けなきゃ！」

急いで回避行動をとる成実、しかしコース的によけられるものではない、しかも、放ってきたのは高压砲弾、つまり即死である

「っ！来い！疾風出雲国斬宗光！」

後の俺が目覚め

ズガガガガガアアン！目覚めると同時に不転百足に即死級の攻撃が直撃するが

「えっ！無傷!?!」

成実の目の前には黒い極東服姿のさつき拾った少年が全てぶった切つて、宙に浮いていた

「どうも、さつきは助けてくれて」

その少年はクルリと顔を成実の方に向け

「ありがとな」

そういった



現外燃拝気用使用保存媒体：機動殻内部、増殖炉兼、内部蓄積部

流体供給方法：基本的には自由、自分の思うがままに流体を供給できるため代演や奉納の必要がない。空になったときは毎秒最大値の10%回復

一般学生の強いほうと100対1で戦おうとしても骨一本折れる程度そして流体の消費がすさまじい、能力が強い代わりにすごい吸われます。

ちなみに、過度の流体使用（常人がすべての流体を一気に使うこと）は、身体にもすごい影響を与えるため、そんなには使えない  
使用武装：疾風出雲シブフウ イズモ クニキリムネミツ 国斬宗光クニキリムネミツ またの名を国斬宗光  
能力：使用している流体を刃に載せて攻撃できる

トリー「・・・世界つてなんだ」

ホライゾン「トリー様がこのようなことを言い始めました、作者様は自重するべきだとホライゾンは申し上げます」

作者「自重しないのが俺の正義ジャスティス」

ホライゾン「自重しましょう」  
ジャキ

作者「とりあえず、その悲嘆レピの怠惰カタスリンしまおうな」

ホライゾン「大丈夫です、問題ありません」

トリー・作者「問題しかねえよ！」

ホライゾン「50%でお送りします」

作者「ヤメロおお！」

ホライゾン「しょうがないです、やめましょう」

トリー「とりあえず、まあ頑張つて行けよ作者」

作者「まあしばらく出番ないけどな」

トリー「作者！カミングアウトしすぎ！」

ホライゾン「壮大なネタバレも有りましたことですし、今日はこのへんでいかかでしょうか？」

作者「そうだな、まあ、今日はこの辺で」

作者「すべての読者様にこのうえない感謝を申し上げます、どうか温かい目で見守っていただけるようよろしくお願いいたします」

ホライゾン「作者様、次の後書きはいつになるのですか？」

作者「未定」

トリー「本日第二波キタああ！」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2307z/>

---

重奏世界蹂躪混乱記

2011年12月11日10時51分発行